

Title	グローバル志向日本企業の海外拠点における現地人管理職の管理・育成に関する考察
Sub Title	
Author	花澤佐依子(Hanazawa, Sayoko) 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第635号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0635

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 花澤 佐依子
主査 石田 英夫
副査 小野 桂之介
所属ゼミナール 石田 英夫 研
古川 公成

グローバル志向日本企業の海外拠点における
現地人管理職の管理・育成に関する考察
地域研究：西ドイツにおける販売拠点

本研究では、グローバリゼーション（地球的規模の事業展開）をすすめる日本企業の海外拠点における現地人管理職の管理・育成の問題である、「いかにして能力が高く、やる気があり、チームワークができ、組織に対するコミットメントを持つ優秀な現地人管理職を育てていくか」について、西ドイツでのフィールドリサーチを通して考察している。

フィールドでは、現地の人事の諸制度・慣行——採用、教育、異動・配置、人事評価、昇進・昇給、権限委譲、コミュニケーション等の実態を探っている。調査方法として、現地企業を22社訪ね、現地人及び、日本人管理職に対して、インタビューを行ない、質問表調査と組み合わせている。調査により、人事管理制度・慣行が、①現地に適応しているケース——例えば、スペシャリストの中途採用。原則として配置転換は社内公募、本人の希望に基づいてのみ行なう。②日本の要素を取り入れているケース——新卒の一部採用。チームワークの重視。③現地で調整をはかっているが、何らかの摩擦を起こしているケース——権限委譲に関する認識ギャップ。コミュニケーションギャップ等が見い出されている。日本企業は海外で今、日本の要素を取り入れつつ、現地の環境へ適応のプロセスにある。

フィールドリサーチの結果を踏まえ、本研究の最後に、グローバル志向企業の今後の海外人事戦略に関して提言を行なっている。